

子どもたちに安心・安全な豚肉を 飯屋ファームが舞桜豚 40kg^キ提供

11月30日に安心で安全な豚肉を食べてほしいと(有)飯屋ファームから学校給食用食材として舞桜豚40kgが提供されました。町内の8小中学校で「舞桜豚の甘辛丼」がふるまわれ、大根占小6年生の大山ゆりかさんと染川稀来さんは「いつも食べている豚肉と比べて歯ごたえがあっておいしかった」と笑顔で話しました。



(有)飯屋ファームは、食品安全や環境保全などに取り組む農場に与えられる「JGAP」の認証を2019年に取得しました。

山や森など舗装のされていない道を守るトレイルラン。アップダウンが激しく滑りやすいため過酷なレースとなります。



第9回錦江町でんしろうトレイル開催 127名が照葉樹の森を駆け抜ける

照葉樹の森を走る特設コースを舞台にタイムを競う第9回錦江町でんしろうトレイルが11月27日開催されました。花瀬自然公園の石畳からスタートする30kmと18kmの2コースに町内外から総勢127名が参加。紅葉の時期を迎え、赤や黄色など色とりどりに染まった照葉樹の森を選手たちが駆け抜けました。

今後は先進地への視察研修や講師による勉強会を実施し、体験プログラムやワーケーション事業などの検証を行う予定です。



第2回錦江町地域活性化協議会総会を開催 地域資源を活用して錦江町を活性化

12月21日、町文化センターで第2回錦江町活性化協議会総会が行われました。地域資源を活用した体験プログラムなどを企画し、錦江町の活性化や地方創生を図ることを目的に設立。21名が参加し、長野県飯島町の取り組みについて説明を受け、町内で行える体験事業の内容や候補地などについて意見を交わしました。

ゆうゆうメンバーと大根占小児童が調査 多様な利用者が使いやすい工夫

12月14日、大根占小の児童と認知症当事者が一緒に町内店舗を回り、認知者や高齢者の方が利用しやすい店とするための改善策を探りました。4年生25名とゆうゆうカフェメンバー5名が参加し、5店舗に分かれて訪問。黒瀬聖佳さんは「ポスターや表示している字が小さくて見づらい」などのメモを取っていました。



町が取り組んでいる「認知症に優しいまちづくり」の一環として実施。児童が考えた工夫をまとめて、各店舗に提言します。

田代中3年の早瀬大地くんは「町の畜産業が盛んであることを知ることができた。農業高校への進学を希望しており、町の農業を盛り上げていきたい」と話しました。



錦江町の中学3年生49名が参加 基盤産業の畜産を学ぶ

町の基幹産業である畜産業について理解を深めてもらおうと、4年前から始まった「畜産業を学ぶ会」が11月29日に開催されました。この日は錦江中と田代中の3年生49名が参加し、牛の見分け方や安全管理についての学習、子牛への「耳標」取り付け作業を体験。バーベキューも行われ、農家や関係者との交流が図られました。

技能実習生など22人が意見を出し合う 共に暮らしやすいまちづくりを

11月27日、町文化センターで錦江町内に在住する外国人が暮らしやすいまちづくりを推進するためのワークショップが初めて開催されました。技能実習などで在留している22人が参加し、3か国ごとのグループに分かれて実施。ごみの分別が難しい、バスの便数や集まる場所を増やしてほしいなどの意見がありました。



町に暮らす在留外国人は約70名。互いの文化的違いを認め合い、共に暮らしやすいまちづくりを行っていく必要があります。

鹿屋市から南大隅町に至る延長約53kmの「大隅縦貫道」。大会では全面開通への財源確保を求める決議採択も行われました。



産業・医療・防災面で重要な道路 大隅縦貫道の早期実現を目指して

11月26日、町文化センターで大隅縦貫道整備促進決起大会が開催され、約300名が参加して縦貫道の早期実現を求めました。大会では、南大隅高校2年の岩留未桜さんが観光や防災など各方面からの必要性を説明し、浜田農園の濱田高輝さんが農業の立場で大隅縦貫道整備に対する意見を発表しました。